

手帳づくり一筋に

蓄積してきた膨大な技術・ノウハウで満足を届ける



工場内部／敷地面積1100坪（工場面積350坪×2棟）

伊藤手帳(株)
〒485-0075 愛知県小牧市三ツ淵1000
TEL 0568(65)9671
FAX 0568(65)9674
<http://www.ito-techo.co.jp/>

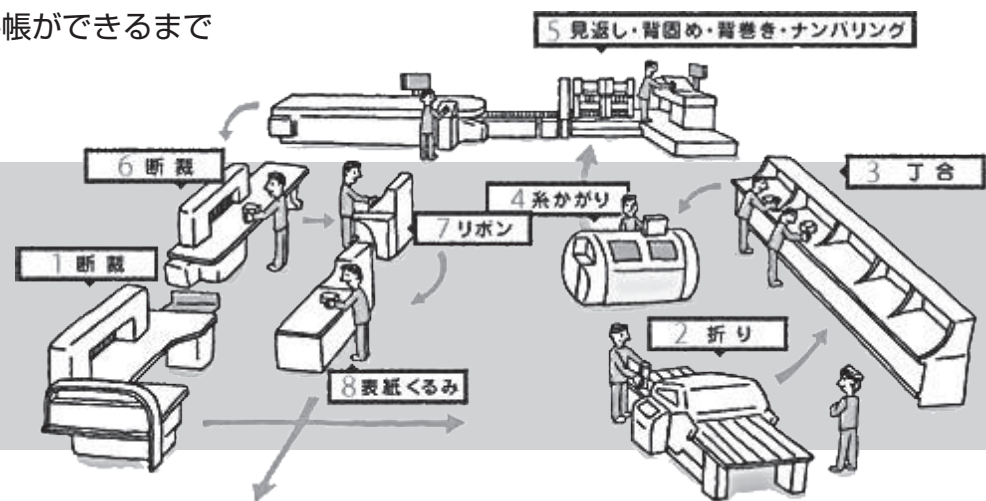


オリジナルブランド「セパレートダイアリー」

昭和12年の創業以来、70年余にわたり「手帳づくり一筋」に貢献してきた伊藤手帳(株)（伊藤亮仁社長）。そこには長年培ってきた多くの知識、技術、そして手帳に対する思いが詰まっている。中でも、センサーやカメラによる検査装置に加え、熟練技術者によるダブルチェック体制は、品質向上を図るのみならず、使いやすさ、機能性を兼ね備え、満足度の高い顧客ニーズに最適手帳を提供している。

手帳づくりへのこだわりは細部まで行き届いている。例えば、堅牢な糸かがり製本。ビジネス手帳は書き込むために1日に何回も開閉を行なう。1日に約10回開閉するとして場合、1ヶ月で300回、1年で3,600回開閉することになる。通常の製本技術ではこの開閉に耐えることができず、手帳の背がわれてしまうことがある。この開閉に耐えるために、耐久性に優れた糸かがり製本を採用している。糸かがり製本は180度開くので使いやすいのが特徴である。また、使用する用紙には手帳専用紙を採用。この用紙は、薄くて軽い、ペンのインクが滲まない、裏ページに文字が透けにくい、滑らかな筆記感覚など、手帳に最適な用紙となっている。

■手帳ができるまで



「モノは人が作る、当社の社是である。この言葉を大切に、どんな最新の設備を備えていても、作る人の情熱がなければいいモノができない。そんな自負と誇りを持って、今後もお客さんが喜んで使ってもらえる手帳を1冊、1冊丁寧に作り続けていきたい」(伊藤広幸生産本部長の言葉)



既製品手帳と既製品ビジネス手帳



□断裁：印刷物を最初に大断ちする工程は、手帳の品質を決めるのに重要である。たった1mmの誤差でも、その後の工程で見開きのカレンダー、罫線のメモページがずれてしまったりする。経験豊富な職人が細心の注意を払って断裁を行っている。



□折り：見開きのカレンダー、罫線、路線図などを正確にずらさずに折ることは、手帳屋の腕の見せ所。特に手帳で使用する紙は一般と比較し薄いので、より高度な技術が求められる。



□丁合い：16ページ分を一つの折りとした「折り丁」を1冊の順番に並べる工程で、乱丁、落丁が絶対に発生しないよう、検知器の導入は勿論のこと背丁(順番を確認するためのペタ印刷)の目視検品を入念に行なっている。



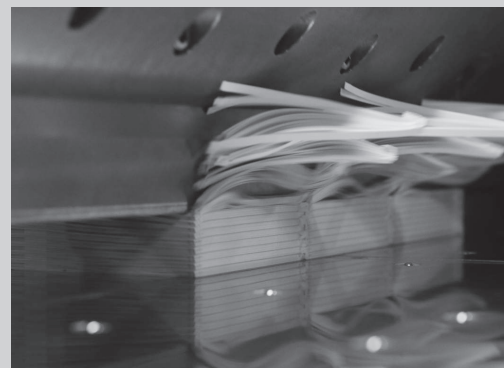
□糸かがり：180度開き、かつ長時間の使用に耐えられる丈夫さを保つために、耐久性に優れている糸かがり製本を採用。いわば、糸かがりは手帳の心臓に当たるところ。業界最先端の糸かがり機が2台フル稼働している。



□表紙くるみ：ビニール表紙と中身を専用ボンドでくるむ。ビニール表紙にコーナーポケットがある場合や、サイズや表紙素材によって、ボンド量の調整が必要で、ここでも職人の技が要求される。



□リボン付け：手帳の背にリボン(しおり紐)を付ける工程で、同時に2本付けることができる。1年間取れずに使用できるよう、背の接着部分には十分な強度が必要とされる。リボンの色も表紙カバーの色に合わせることができる。



□断裁：3方(天・地・小口)の余分な部分を断裁して、1冊の手帳の形に仕上げる。印刷の字切れや斜め断裁されることがないよう、細心の注意が必要になる。



□見返し・背固め・背巻き・ナンバーリング：手帳の背に見返しを貼ってボンドで固め、背巻きの紙を背中にぴったりと貼り付ける。手帳に耐久性を持たせるために重要な作業で、手帳職人の技とノウハウが活かされる。